

平成25年度 放課後児童クラブ 事業報告

今年度は、小学校1年生から4年生までの受け入れを行ってきました。新園舎になって、スペースも広がり、ガイドラインにある「児童一人当たりおおむね1.65㎡以上」が確保されたため、希望に応じ、預かりを行う事ができました。湖西市では、学校に放課後児童クラブ約200人前後の定員があり、学校によっては空きがあったりしていますが、岡崎地区の学童は、利用人数が多いのが現状です。

「秋津」では、各小学校からの受け入れ（学校に迎えに行く）と、休日開所をしているため、また預かり時間の延長もあるため、希望者が多く、今年度は、平均57人の利用がみられました。（資料参照）全国規模の現状は、児童数35人まで8,709カ所（40.5%）、36～45人4,945人（23%）、46～55人3,341カ所（15.6%）、56人以上、4,487カ所（20.9%）で、利用も増えている現状です。

また、子どもの過ごす様子や保護者の対応等、全体の日誌をつけたことやお便りの発行で、より分かりやすくなり、指導員の共有意識にもつながったと考えます。今後、児童の状況が複雑化してくる中、児童の心身の状態、養育の状態について、日々の生活の中から観察し、被虐待児や養育困難家庭、障害児の受け入れ等、福祉的介入が必要な支援に携わっていかねばならない現状があります。ただ預かるだけでなく、子どもの様子を把握し、継続的な関わりが持てるように検討をしていきたいと思います。

<岡崎保育園 放課後児童クラブ 秋津（あきつ）の目標> 「気持ちの良いあいさつができる子ども」

法人の基本方針	重点目標	取り組み内容	事業報告
<p>①ガイドラインに沿った内容の実践</p> <p>静岡県 放課後児童クラブ ガイドラインの添った担当業務のあり方を 把握したうえで、実践し振りかえりを行う。</p> <p>各担当組織、職員個々が目標を持って行動し、担当組織や自分の担当業務の振り返りを行う。</p> <p>（目標による管理）</p>	<p>1. 一人ひとりの児童を理解し、自主性を育てる。</p> <p><子どものつながり></p>	<p>★一人ひとりの子どもの育ちを「できた」「できない」だけでとらえないで、その子の思い、経験、過程を大切にしようと意識していく。</p> <p>・結果だけ考えるのではなく、保育の過程を大切にしながら、実践や子どもの記録の方法を検討する。</p> <p>・子どもの思いに耳を傾け、子どもの姿を読み取る方法を学び合う。</p>	<p>・学校、学年ごとに下校時間が違うので、帰ったらまず机に向かって宿題をする習慣をつけた。</p> <p>・「ない」という子どもの対応。</p> <p>・けんかの場合、納得するまで言葉を出させる。時間をかけ、関わりをもつ。保護者にあったことを伝える。</p> <p>＊一人ひとりの関わりができていないが、職員によって対応が違う。共通意識が必要。</p> <p>・個人記録の必要性</p>
<p>①国、市の方針、</p> <p>環境変化に応じた園の経営 国の「子ども・子育て新システム」、市の保育対策等への適合をはかる。地域の利用者の保育ニーズ、学童保育ニーズへ対応する。 保育所担当行政をはじめ関係機関との連携を深める。</p> <p>将来、認定こども園となることを前提にして、その実現のための検討をする。</p>	<p>2. 利用者のニーズを把握する。</p> <p>学校との連携を図る。</p> <p><園のつながり></p>	<p>★放課後児童クラブの意味、目的を職員が理解し、利用者にも伝えていく。</p> <p>・丁寧な説明と心配り</p> <p>★なじみやすいように名称の変更</p> <p>・わんぱくキッズ→秋津（あきつ）</p> <p>★会議の充実をはかる。</p> <p>・職員会議や保護者への説明を計画性に行う。</p> <p>★園児との交流</p> <p>長期期間等を利用し、園児と交流</p> <p>一緒に遊び子ども同士の中からルールを覚えたり、流しそうめんをしたり楽しむ。</p> <p>★学校の様子の情報を得る</p>	<p>・がくどうだよりで放課後児童クラブの全体のお便りを、秋津通信で職員が記入した子どもたちの様子のお便りを配布した。</p> <p>・保育園児を流しそうめんに招待する。（自分たちで企画）</p> <p>＊計画をしっかりと立て、行動できている。保護者の相談を丁寧に受け答えして、声をかけている。</p> <p>会議の継続ができていない。</p>
<p>③保護者への積極的な子育て支援</p> <p>保護者への支援、保護者との連携強化する。</p>	<p>3. 社会性を身につけ、仲間意識を身につける。</p> <p>相談できる場所や人を作る。</p> <p><保護者のつながり></p>	<p>★子どもの姿を伝え合い、保護者とコミュニケーションをはかり、信頼関係を築く。</p> <p>・保育園行事に参加する。</p> <p>★長期休暇等で、社会体験を行う。</p> <p>・公共のルールやマナーを体験する</p> <p>・保護者に様子を随時伝えていく</p> <p>・給食提供</p>	<p>・マニュアルがないので、対応は、個々の職員になる。ケースや会議で出来事の報告を行い、共有する。</p> <p>・学童日誌をつける。</p> <p>＊利用者の希望で、夏休みの給食実施と学校プール開放の送迎を試みて、保護相談しやすい姿勢、環境が作られている。</p>
<p>④保育環境の整備</p> <p>子どもたちの安全と衛生的な環境 危機管理体制の確立。災害対策、日々の保育事故、食事や衛生管理等。</p>	<p>4. 子どもの過ごしやすい環境を常に考え、たくさんの人とかわり生活体験をする。</p> <p>健康管理と安全に留意する。</p>	<p>★備品管理</p> <p>★マニュアル作成</p> <p>・事故ヒヤリハットの確認検証</p> <p>★人との関わり体験をしていく中で、感謝の気持ちに触れ思いやり保育につなげてく。</p> <p>★課外活動の確認</p>	<p>・朝のラジオ体操を一緒にする。</p> <p>・特別養護老人ホーム光湖苑訪問</p> <p>・保育園の避難訓練に参加する。</p> <p>＊人数が多いので、グループ分けを行った。</p>

<p>修繕や備品の購入は年次を追って計画的に進める。</p>	<p><地域のつながり></p>		<p>マニュアル作成できていない。</p>
<p>⑤働きやすい環境づくり 職員の確保・育成 倫理性、組織性、専門性をもつ職員の育成を行う。自ら学ぶ姿勢を支援する。</p>	<p>5. 職員一人ひとりが意識をして、働きやすい職場環境を目指す。 <職員のつながり></p>	<p>★個人目標をもち、意識の向上を図る。 ★業務の省力化を心掛け、職員間での情報の共有化をはかる ・自己チェックと評価 ・担当業務の内容や当番の見直しを行い、みんなでの共通意識をもち、それぞれに役割を果たす</p>	<p>・靴箱が不足、増設 ・机の追加 *パート職員での構成のため、一人ひとは一生懸命だが、組織として動きができない。</p>
<p>⑧タイムリーな情報発信 常に利用者、地域社会に情報を発信</p>	<p>8. 保育の実践に込められた 願いの発信を</p>	<p>★エピソード記録を全員に書いてもらい、みんな読んで振り返りをし、園便りで保護</p>	<p>学童のパンフレット作成ができればよい</p>
<p>⑨環境を守る取り組み 保育の中にも職員の行動にも環境問題を考えた対応をするものを大切に。動・植物を大切に。</p>	<p>9. 食育やエコ活動を通じて 生きることの基本を学ぶ。 <しぜんとなかよしになる></p>	<p>★エコ問題の取り組み、働き掛け（マイ箸等） ゴミの分別 ★花壇の苗うえ 雨水を使用した水やり ★森の利用をみんなで考える</p>	<p>遊びの場所の充実 プチボランティアの実施</p>